

自己評価及び外部評価結果

令和5年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果 市町村受理日	令和6年6月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

4年にわたるコロナ禍で、ご入居者の身体機能の低下、認知症が進行しないことを1番に考え努力してきました。ご家族と自由に会えない、家に帰れない、旅行に行けない等の不安やストレスが認知症の進行にならないよう、季節の移ろいを感じられるように作った庭（イングリッシュガーデン）を散歩しながら、四季折々の花を楽しみ、柿や、栗、玉ねぎ、さつまいも、みかん、キーウィフルーツ、カリン、ざくろ、自然に生えている蒔等を楽しんでいます。適度な勾配をつけた遊歩道、散歩の途中で休憩ができるように作ったガゼボ（西洋風あずまや）で休憩し、日当たりのよいらんらん広場では体操をしたり、お茶を飲んだりしています。四季の花々がその時期に咲くように花や樹木を植え花の名前がわかるようにネームプレートもつけました。今年の春には色とりどりの薔薇が楽しめます。所々に兔、羊、犬、熊などの可愛いオーナメントも今ではおなじみになっています。2月の終わり頃から開花する河津桜は地域の方々も楽しみにされています。ウッドデッキとテラスには、全居室から車いすでも出這入りできるためコロナ対応時、避難訓練時ともその機能を発揮いたしました。朝夕2回行っているラジオ体操やプレイル予防の体操等も職員が頑張っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年2月22日	評価機関 評価決定日	令和6年6月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

当事業所は、市営地下鉄川和町駅から徒歩10分ほどの自然豊かな環境に位置する2000坪の広い敷地に、2階建てに2ユニット、平屋建てに1ユニットが建ち並び、3ユニットのグループホームである。周辺には畑や竹林があり、天気の良い日には遠くに富士山が望める。建物裏手のなだらかな広い敷地に、コロナ禍以降に、ボランティアも手伝って、整備したイングリッシュガーデンと農園は、利用者が、事業所で、日々、安全・快適に豊かな時間を過ごせる中心的役割を果たしている。

【地域と一体的に考える防災対策】

地域との防災協定等は結んでいないが、地元住民との深い関係性が構築されており、相互理解が進んでいる。災害時には、広い庭園にあるガゼボとパーゴラを活用すると共に、従来からある4張りの3m×3mのテントと、新たに作っているバラ園の屋根にブルーシートを張って、地域住民も含めた一時避難場所として使用することも考えている。また、災害時にはホームの方達だけでなく一時避難された近隣住民の方の支援もできるように、備蓄の備えとして十分な食料と飲料水を、事業所内の備蓄庫と近隣にある法人の倉庫に保管している。

【理念に根差した食事の提供】

手造りの食事を大切にして3食とも職員が調理を担っている。五感を刺激する目的で、音やにおいを感じられるように、キッチンを中心にした周囲に居室が配置されている。鰹節と昆布で毎日出汁を取り、味噌汁を作っている。また菜園で採れた野菜や果物を献立に取り入れている。行事食も職員が手作りしているが、時には、出前やテイクアウトを活用して利用者には好評を頂いている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム都筑の丘
ユニット名	やまぶき棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム都筑の丘
ユニット名	あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記してあります。その中に「地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援します」という項目があります。毎年2月の下旬から咲き始める「河津桜」は地域の皆様も楽しみにされているので昨年はライトアップをしました。今年も楽しみにされています。ご近所の方から筍や珍しい野菜をいただき楽しんでいます。	理念は、開設時に職員で話し合い作成した。理念に沿って、利用者が日々、安全・快適に豊かな時間を過ごせる事業所を目標にしている。理念は、各ユニットの事務室に掲示すると共に、職員の名札の裏に記載している。ユニット毎に行う月1回のワーカールーム会議の中で、話し合いやケアプラン作成の基として理念を引用し、確認している。理念がケアに生かされており、利用者が心豊かに自然の中で生活することを大切にしている。自然豊かな事業所の環境等を大切にしたい支援をし、理念の中の「五感を刺激し、個人の能力が発揮できるように支援します。」に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナで人の集まる行事ができませんでした。地域のボランティアも畑と花壇以外の方はこられませんでした。満開の桜や、イングリッシュガーデンを地域の方が通りがかりにご覧になり「きれいですね。桜のライトアップは今年もお願いします。」と声をかけてくださいます。川和小学校のコミティフェスタに参加し、ご入居者と職員で創作した貼り絵の「雨のあじさい、花火大会」は好評をいただきました。	川和町内会森地区に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。地域密着の施設として、開所時から地域の方の理解と協力を得て事業所を運営してきた。散歩は事業所の敷地内に限っているが、地域の方の通学や通勤時、また散歩等で事業所の横を通る時には挨拶を交わしている。利用者の散歩時に近所の方も、事業所の庭を眺めて、四季折々の庭の風景を楽しんで交流している。地域行事で実施された拠点防災訓練と講習会に管理者が参加した。地域の「みどり保育園」の児童とは、秋の芋掘りや七夕に笹を提供して交流している。6月に川和小学校のコミュニティフェスタに作品を出展した。庭や畑づくりのボランティアが来所し、畑の手入れや収穫を主体的に行っている。音楽療法のボランティアが月2回来所して、各ユニットのピアノを使用して、活動している。	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>近年さびれて行く地域の商店街への地域貢献として開設以来地域の商店を利用しています。米屋、肉屋、電気屋、食品全般。中華料理店からは年に数回出前を頼みご入居者も楽しみにしています。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>令和5年度の運営推進会議は6月は書面会議で行いました。8月10月12月に行い2月と3月に年度末の会議を予定しています。地域包括の方に相談したり、近隣住民の方からの情報やご意見を頂いて運営の参考にしています。</p>	<p>運営推進会議を4月は書面、6月は屋外で開催したが、8月以降は、事業所内で2か月に1回、対面開催している。運営会議のメンバーは、家族代表、地域包括支援センター職員、園芸ボランティア、婦人会代表、地域住民代表及び民生委員など多彩な顔ぶれが揃い、ホームの運営に協力を得ている。会議では各出席者から様々な情報を得ている。事業所からは、活動報告を行って、話し合っている。会議の報告書を都筑区・高齢障害支援課に送付している。会議の中で配布した活動報告書は、プライバシー保護の観点から終了後に回収している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>都筑区役所主催の「認知症パネル展」に参加し、会場にパンフレットを置かせて頂きました。</p>	<p>区の高齢障害支援課に運営推進会議の報告書を送っている。都筑区役所主催の認知症フォーラムや認知症カフェに協力して、9月の認知症パネル展に貼り絵の作品を出展した。介護保険の要介護認定代行申請で計画作成者が区の高齢障害支援課に訪問し情報交換している。その他の相談では電話等で連携している。県から身体拘束廃止推進や虐待防止の研修案内が来ており、職員・主任・管理者1名ずつ参加し、権利擁護の研修にも職員が1名オンラインで参加した。4ヶ月に1度、地域ケアプラザが主催する川和地区福祉ネットワークの会合が町内会館で行われ、管理者が出席している。行政の研修（感染症・防災）で、3月に消防と所管の福祉施設との話し合いを行うことになっている。横浜高齢者グループホーム連絡会に加入している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という前提のもとケアをしています。「これって身体拘束？」と思われる場面もあります。その事に気づくことが大事で月に1度のカンファレンス時に確認しています。	身体拘束等適正化のための指針及び身体拘束排除マニュアルを作成し、ワーカー会議でマニュアルを使用した研修を3ヶ月毎に実施している。3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会を一体的に開催し、日々のケアの中で起こりがちなケアを取り上げて話し合っている。毎月のワーカー会議で職員は不適切なケアに関するレポートを提出している。防犯対策のため玄関は施錠しているが、各ユニットの出入り口は施錠していない。現在、帰宅願望の強い方はいない。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3ヶ月毎に全体会議時に行っています。入居者の痣や傷はすぐに画像を撮影し管理者に報告をして原因を究明しています。入居者の安全と人権を守る努力をしています。毎年「神奈川県養介護施設従事者等による高齢者虐待防止に係る一斉点検」の自己点検をを全職員が実施しそれを基に研修をしています。	指針の策定、委員会の開催、研修の実施及び担当者の選任は実施されている。虐待防止委員会は、身体拘束適性化委員会と同時に3ヶ月毎に開催している。高齢者虐待防止マニュアルを使用して、職員は利用者の安全確保を常に確認しながら、日々のケアに当たっている。利用者に「あざ」を発見した時は写真を撮り、発生の原因についてワーカー会議で解明している。ワーカー会議で虐待防止の研修を行い、不適切ケアや声掛けについて話し合っている。管理者は、職員のストレスや疲れに気がついた時は、積極的に話しかけ、勤務シフトを調整する等の対応をしている。提携の社会保険労務士の携帯電話番号を職員に周知して、事業所を通さず、各自が直接相談できるようにしている。	

8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ご入居者の権利を尊重して守ることの大切さを身体拘束も含め研修しています。また職員も理解しています。成年後見制度は利用されている方からの事例として学ばせていただいています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）等をわかりやすく説明をしてご理解していただき同意を得て契約をしています。</p>		
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価のご家族アンケートにはご沢山のご意見をいただきとても嬉しいです。改善できるところは速やかに改善し反映させています。いただいたご意見は全て文書でお答えしています。面会時等の要望も速やかに対応をしています。日々の生活の中でご入居者のご意見（食事に関することやレクリエーション等）はすぐに対応しています。</p>	<p>家族からの意見は、面会での来所時に聴取している。また外部評価の家族アンケート結果も大切に考えている。昨年実施された家族アンケートでの意見に対し、回答を作成し、全家族に送付している。家族への情報提供として、季刊誌「ハロー都筑の丘」のほか、毎日記入している「報告書」の1ヶ月分と生活の様子を収めた写真・医療情報などを、利用料の請求書に同封して、郵送またはメールで送信している。その他に、お小遣いの明細書・領収書や薬局からの明細書を同封している。訪問診療の明細や報告は、医師から家族に直接送られている。家族の面会は、玄関や広い園庭を使用して15分程度の時間制限を設けて実施しているが、多くの家族は屋外での面会后に手入れされた庭園の散策を楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で発生した問題点は速やかにその場で話し合い解決するようにしています。月に1度のサービス担当者会でケアプランの見直しや、職員からの要望、提案等を聞いて改善に繋がっています。	毎月のワーカー会議は、職員が意見を出しやすい場となっている。また、そこで出た意見は全体会議で毎月検討され、法人に伝達される。ワーカー会議は、全員参加を基本としている。参加出来ない職員には、議事録を配布している。職員は必要事項を連絡帳に記入し、伝達している。人事評価の自己評価を基に年1回行う個人面談の中や、日常の業務の中で、職員の意見を聞き取っている。職員からの意見を基に、別々のバインダーに収納していた各種チェック表を、1冊のバインダーに収納する等を行い、職員の手間を省く業務改善につながった事例がある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、貢献度などを公平に見極め職員が前向きに安心して働けるような環境を作ることを努力しています。介護職員処遇改善加算は年3回支給しています。社会保険労務士による「職場のハラスメント」の研修を行いました。上司に直接言えない事は社会保険労務士に直接電話ができるようにと職員一人一人に名刺をくださっています。	年1回能力評価システム（人事考課表）を使用して、職員各々が自己評価を行い、管理者が評価を行っている。管理者は個別面談の際に、キャリアパス制度に基づき随時職員個々の目標を聞き取り、話し合っている。職員の休暇取得促進への取り組みとして、全職員が有給休暇を年6日以上取れるように、計画作成担当者が、勤務表・シフト作成時に配慮している。介護福祉士、ケアマネジャーの資格保持者には手当が支給される。資格取得のために管理者が認めた講習を受講する際には、資格の種類によって出勤扱い、交通費や受講料の負担に違いがあるが、事業所から支援が受けられる。職員は、事務室や庭園で休憩している。職員の健康診断を年1回実施（夜勤者は年2回）している。内科医によるストレス確認も実施している。顧問の社会保険労務士を講師に迎え、ワーカー会議の中でハラスメント	

				についての研修を実施している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はコロナ禍で全体研修ができなくなり、毎月のサービス担当者会議時に行っています。外部研修も控えています。外部研修も控えています。希望者には参加できるようにしています。	ワーカー会議の中で研修を行っている。出席できなかった職員には後日口頭で周知している。研修後のレポートは管理者が集計し、総合評価のみを次回のワーカー会議でフィードバックしている。外部研修を受講した際は、対面・リモートに関係なく終了後に研修報告を提出している。また行政が主催する研修や資格取得のための研修をオンラインで受けている。できる限り研修を受講しやすいようにシフト調整を行うこともある。新入職員のOJTでは管理者と先輩職員が研修を実施し、新入職員の経験とスキルによって勤務開始後も管理者が適宜指導している。	職員の質の向上のための、研修計画の実践状況が良く見えませんでした。また、外部研修についても積極的な取り組みが必要かと思われます。内部研修の実効性を高め、外部の研修にもより一層取り組みを強化して、職員の全体的なレベルアップを図ることを期待します。研修で得た知識・技術をフィードバックすることで、職員の意欲の向上につながり、利用者がより一層心豊かに楽しく生活できる場の構築につながると考えられます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜高齢者GH連絡会、神奈川県高齢者認知症GH協議会に加入しています。コロナ禍で交換研修ができませんでしたが今年開催することができ参加いたしました。ブロック会議はオンラインでの参加で他事業所の様子がわかり参考になりました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族に書いて頂いたアセスメントをもとにご本人から話を引き出しながら緊張や不安を取り除くようにしています。職員だけでなく他入居者も協力してくれます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご入居者に対しての思いや、ホームへのご希望等を遠慮なくいつでも相談していただけるようにしています。面会時や電話ですしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	突然今までと異なる環境になり不安な気持ちを職員は理解し、GHの生活に慣れていただくことを短期目標にしてその方に必要な支援を見極めています。		

18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>9人の入居者と職員が下宿屋さんのように生活することが理想です。それぞれの得意分野を職員が把握してご入居者と協働しています。人生の大先輩として教えていただくこともあります。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナで面会時間が15分となり外でご家族とはマスクをして距離をとりながらの面会なので来られた方が誰だかわからないことがあったり、聞こえにくく話しが噛み合わないこともあります。ご家族の希望もあり、職員が付き添い間にはいり会話を繋いでいます。ご家族の要望には出来る限りお応えできるようにしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達やご家族の手紙や電話でお話をされています。手紙が読めない時は代読し、電話で話しが通じない時もありますので職員がそばについてフォローしています。	知人・友人の面会は、家族と同様に15分の時間制限を設けて、庭園を利用し実施している。電話を取り次いだり、はがきや年賀状を投函したりして、従前の関係が途切れないように支援している。家族からの依頼で、日用品や消耗品を職員が代理購入している。コロナ禍以前には、外出されるケースもあったが、現在、外出は、病院の受診時のみとなっている。事業所がユニットごとに購読している新聞を毎日読んでいる方がいる。利用者の不安を防止するため、凄惨な事件や事故があった時には新聞やテレビのニュース番組が目につかないように配慮している。趣味として、塗り絵を続けている方や、家族が図書館で借りた本を読む方がいる。	

21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>終日繰り返される帰宅願望や同じ話しの繰り返しでも話を聞いてくれます。洗濯物を干したり、畳むのも一緒にしています。お互いの部屋に行ったり来たりして話をされています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去をされるとご本人との関係性はなくなりますが、ご家族はボランティアとしてきてくださったり、ホームを紹介してくださったり、年末になると毎年カレンダーをもって来てくださる方もいます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否があっても当たり前のことと受け止めています。入浴拒否が強く1週間以上入浴されない時はご家族に電話で入浴の声かけをしていただくと入られます。	入居前のアセスメントは、家族に調査書に記入してもらい把握している。入浴や散歩の時間は、職員と1対1でゆっくり話ができる大切な場と時間として捉え、利用者の思いや要望を聞いている。食べ物に関する要望が圧倒的に多い。要望が叶い、利用者の気持ちが満たされるように、出前等を利用することもある。意思表示が困難な利用者には、積極的に声掛けをして、表情や態度・行動から本人の気持ちを汲み取っている。意見や要望を聞き取った際には報告書に記録している。職員は、毎日の出勤時に前日の報告書や業務日誌・連絡ノートなどを確認している。また、聞き取った内容をワーカー会議で共有し、質の高いケアの実践に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少期から現在までの生活をご家族と一緒にアセスメントをします。職員との会話の中でご家族もしらなかったエピソードなどもあり報告すると喜ばれます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天候等を視野に入れながら過ごして頂いています。嫌なことは強制はせず、皆さんとテレビを観たり、食事の時の盛り付けや食器拭き等得意なお手伝いをされます。疲れたり、1人になりたい時は居室で本を読んだりお昼寝をされています。			

26	13	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>身体機能の衰えや認知症の進行などを感じた時はその都度対応方法を話しあいます。ご家族や往診医に相談することで介護計画の変更になることもあります。</p>	<p>利用者毎の報告書をパソコンで作成している。毎月のワーカー会議で全員分のケアカンファレンスを行い、モニタリングは職員の意見を入れて、管理者または計画作成者が行っている。毎月のケア記録と月2回の往診の医療情報をアセスメントシートに記録している。業務日誌やチェック表及び職員間の連絡ノート等に、ケアの内容を詳細に記録してケアの見直しに活かしている。ケアプランは、通常は6カ月ごとに見直しているが、変化があった際はその都度見直している。介護計画の変更の内容は、様式のコピーを回覧し、連絡帳に記載すると共にワーカー会議で報告している。介護報告書の援助目標に職員がチェックすることで、介護計画と実際のケアとの連動が分かるようになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子は毎月報告書と写真をご家族に送っています。職員は入社したらすぐに各ユニットの連絡ノート、業務日報、報告書に目を通し情報の共有をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	川和町内会、川和地区福祉ネットワーク、地元の消防団、川和小学校、地域包括支援センターなど多くの協力を得て他機能化に取り組んでいますが、コロナ禍の現状はできていないところもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法（爛々会）社交ダンス、盆踊り等は今年もコロナでボランティアの方に来ていただけできませんでしたが11月から開催方法を検討し爛々会を復活いたしました。社交ダンスが好きな方が多いので早く復活したいです。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	さとう内科クリニックの訪問診療に際してはご家族に同意をいただいています。緊急時や薬の変更等はDrから直接ご家族に電話で説明をしていただきますので、ご家族も安心されています。	利用者全員が協力医の月2回の訪問診療を受診している。協力医とは、365日・24時間オンコール体制となっている。看護師が毎週日曜午前に来所し、利用者の健康管理をしている。協力医療機関では内科の他、精神科や泌尿器科医の月1回の訪問診療に加え、皮膚科、眼科、整形外科、耳鼻咽喉科など必要に応じた訪問診療も受診できる。訪問歯科医は利用者の入居時に診察し、その後は、希望者を対象に週1回往診する他、定期検診に訪れている。必要な方を対象に歯科衛生士が2週間に1度来所し、口腔ケアを行っている。訪問診療の診療記録は報告書に記載しており、家族と職員向けの記録になっている。通院の結果は報告書に記載している。協力医の処方箋で協力薬局から利用者毎の薬剤が届き、各ユニットのホーム長が薬剤の確認と配薬を行っている。	

31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>さとう内科の往診の看護師さんから褥瘡の処置方法やコロナのガウンテクニック、ゾーニングなどその場で教えていただいています。毎週日曜日の看護師の健康管理の時はちょっとした事等気軽に相談にのってくれるので心強いです。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>緊急入院時には訪問診療のさとう内科クリニックから迅速に紹介状を送ってもらっています。受診時にはホーム長や管理者が家族と共に同行し退院に向けたカンファレンスに参加し早期退院を相談します。現状病院でのカンファレンスには参加できません。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GH都筑の丘の「重度化に関する指針」を基盤とし、ご家族、ご本人の思いを大切にしながら訪問医療のさとう内科クリニックと連携しながら終末期に向けたケアに取り組みたいです、	重度化対応に関する指針を基に、入居前の見学時に当事業所では家族の希望があれば看取りに対応するが、積極的な看取りは行っていない旨を伝えて、同意書を手交している。最後まで事業所で過ごして欲しいという家族のニーズもある為、今後もケースバイケースで対応していく方針としている。実際の看取りでは、延命治療をしないことと看取りに際しての説明を、協力医から家族に説明している。看取りの体制について家族、医療関係者、管理者の三者で話し合い、方針を決定しており、移転先の病院や施設の選定にも協力している。過去1年の間では、1件の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で消防署の主催の訓練はできませんでしたが、日々の業務の中で、ご入居者の様子がいつもと違っていった時や、出血をした時の止血法等は事例を基に訓練をし、早期対応をしています。脳梗塞の早期対応は病院で褒められました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	認知症のため他所に避難することは困難だと思われます。広い敷地を利用してホームで避難することを考えています。コロナ禍で今はできませんが、地域の消防団、近隣の住民の方達との消防訓練を行っていただきましたので協力体制はできています。	今年度は9月に夜間想定火災の避難訓練を実施した。また10月には、地域の防災拠点訓練が行われ、管理者が参加した。2月に夜間の地震を想定した避難訓練と炊き出しの訓練も行った。すべての居室が、非常階段に繋がるベランダに面している。災害時には、広い庭園を地域住民も含めた一時避難場所として使用する事を念頭に整備している。災害備蓄リストがあり、近隣住民の分も含めて十分な食料と飲料水を保管している。BCP（事業継続計画）は、担当ホーム長	

				が研修を受講し、取り組み中である。	
--	--	--	--	-------------------	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症」と言う病気であること職員は理解してご本人の人格を尊重しプライドや尊厳を大切にした対応をしています。プライバシーの保持にも気をつけています。	報告書や記録は、利用者に見えないようにパソコンに入力している。職員同士の会話の際には、声や場所に配慮し、利用者が不必要な会話を耳にしないように努めている。管理者が職員の不適切な言葉や行動に気付いた時は、注意喚起し、連絡ノートで全員に共有している。利用者の呼称は、名字にさん付けを基本としている。行動倫理と接遇・マナーの研修を実施している。居室のドアは安全のため「引き戸」になっており、特に鍵は付いていない。個人情報を含む書類は施錠出来るキャビネット内に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちを表現できない方の思いをくみ取り「今どうしたいのかな」と考えて援助しています。散歩や、余暇支援の参加も声はかけますが自分で決めていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調気分を観察しながら一人一人のペースにあわせています。1日のスケジュールは決めず天気がよいと1日に午前、午後散歩に行くこともありますが行きたくない人は新聞を読んだりテレビを見たり居眠りをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べない方は職員がお手伝いしながら季節に合ったものを着て頂いています。体系や体の動き等が変わりご家族ではわからない時はサイズ好み、身体の動き等を熟知している職員がご家族に了解していただき購入しています。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食器洗い、食器拭き、盛り付けなどは特意の方が率先してしてくれ自然に役割分担ができています。人気のある献立は栄養士に話し回数を多くしたり、近所の中華1番からラーメンやチャーハンの出前をとったり、ハンバーグランチのテイクアウトをしたり、父の日は今半の「牛肉弁当」が大好評でした。敬老の日は恒例のなだ万の「寿の膳」を笑顔で召し上がりました。おいしく食べていただくことはなよりの支援だと思っています。ホームで収穫した栗や蒨、ご近所から頂く沢山の筍で作った炊き込みご飯や、収穫した果物やさつま芋で職員が作ったお菓子はとても喜ばれます。</p>	<p>手作りの食事を提供することを大切にして職員が3食とも調理している。管理栄養士が献立やレシピを作成し、介護職員が調理を担っている。利用者の希望を反映して、行事食も職員が手作りしている。フロア毎の誕生日会では、ケーキを購入し、食事はお赤飯を提供している。バレンタインにはチョコレートケーキを作り、畑で収穫した白菜を漬物にして提供した。利用者の状況に合わせてとろみ、刻み、ミキサー等の食形態にも対応している。利用者は、職員ともに盛り付けや食器・テーブル拭きの他に、包丁を使って調理の補助等、各々できる作業を行っている。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れるようしてもらっています。一人一人のご飯や水分の量、歯や嚥下の状態、減塩などを歯科医と往診医にも相談指導していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士による口腔衛生をしています。職員は口腔ケア時に立ち会っています。毎食後に歯磨きの声掛けと見守り、必要な介助をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しリハビリパンツを使用している方もトイレで排泄をしていただいています。ご本人には自立支援になりご家族には経費の負担が減ることにもなります。	各ユニットで3～5名の利用者は、支援を受けずにトイレで排泄をしている。他の方には、排泄チェック表を基に、食事前の定時誘導で、トイレでの排泄を支援している。布パンツを使用している方は、事業所全体で6名いる。トイレ誘導の際は、羞恥心に配慮して、周りに気付かれないように注意している。入居時にリハビリパンツにパッドを使用していた方に、早めの声掛けを心掛けたところ、布パンツ使用に改善した事例が2名程ある。夜間は、大半の方に対して、1回はトイレ定時誘導している。トイレに行くこともリハビリの一環として、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏の原因が便秘であることを職員は理解しています。1日2回以上の体操やストレッチ、便秘時には歩行や腹筋の運動やマッサージをしています。水分摂取が少ない方の対		

			<p>応等排便チェック表を基にかかりつけ医に相談しながら便秘薬の調整をしたり、時にはナースによる摘便をしてもらっています。</p>		
45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>1日おきの入浴ですが毎日入りたい方は時間を調整したり、希望の時間がある方はその時間に入浴していただいています。拒否の強い方は無理じいはず声を掛ける職員を交替したり連携プレーで気持ちよく入浴していただいています。冬場は柚子が沢山収穫できるので柚子湯を楽しんでいます。</p>	<p>週3～4回、1日おきに4～5名ずつ午後の時間帯に入浴している。希望があれば追加や変更にも対応している。入浴を好まない方には声を掛ける職員や曜日を変えて、対応している。現在、同性介助を希望する2名の利用者にも対応している。体調の悪い方には、シャワー浴や足浴・清拭で清潔保持をしている。入浴時の会話で、利用者の本心や昔の話を聞いて、介護計画に繋げることもある。湯舟に庭に実る柚子の実を浮かべた柚子湯や、端午の節句には菖蒲湯で季節感を味わっている。ヒートショック対策として、脱衣場には浴室暖房を設置して浴室との温度差を解消している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の余暇支援、お手伝い、体操や散歩で体を動かすことが夜間の良眠に繋がります。疲れたら居室で適度の昼寝をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬管理表にそれぞれの薬の目的、量、時間を明記して、与薬時はそれを二人の職員が確認しあい与薬しています。薬の変更があった時は薬担当職員がユニットの職員に徹底周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者一人一人の得意な事、好きな事、好きな歌、好きな食べ物等を職員は把握し、テレビの番組は毎日チェックし録画をしたり映画等を楽しんでいただいています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でこの3年は外出を控えています。イングリッシュガーデン、遊歩道を作り散歩や体操、気分転換をしています。季節の畑の収穫は皆さんとても楽しみにされています。	コロナ禍以降は外出を控えている。利用者が、広大な敷地内で安心して散歩できるように、庭の整備に努め、活動しやすい環境が作られている。認知症の進行予防や利用者下肢筋力の低下等への対策として、利用者が散歩しやすい遊歩道とガゼボ（西洋風あずまや）を整備している。庭で体操をしたり、歌を唄ったり、お茶を楽しむこともある。全ての居室から直接ウッドデッキとテラスに出入りできるため、利用者は気軽に外の景色や庭園を楽しめる。家族には、通院以外の外出や外泊を控え、庭園を利用した面会を楽しんでもらうように依頼している。外出の記録は、散歩チェック表	

				と業務日誌に記載して管理している。昨年は、ドライブを兼ねて川和町駅の近くに菜の花見物に出掛けた。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる盗られ妄想等の金銭トラブルの出現があるので金銭はお預かりしていません。ご入居者にはご家族が預かっている事をその都度お話ししています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという時は、あらかじめご家族の了解を頂いた上で折り返し電話をしています。手紙をご自分で書けなくなった方には、代読、代筆をすることもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓を開放し自然の風をとりこんでいます。窓が大きいので明るすぎる時はほどよい明るさにしています。窓や庭から富士山が見えるととても喜ばれます。CDの音楽も季節や好みで選曲しています。各ユニットの廊下には葉祥明さん等の穏やかな気持ちになる絵をかけています。リビングには季節のディスプレイを楽しんでいただいています。笑顔の写真も喜ばれます。	リビングは天井が高く明るい日差しが射しこみ、明るさをカーテンで調整している。この時期には、窓の正面に満開の河津桜が眺められ、夜はライトアップされた桜を觀賞出来る。各フロアにはピアノが置かれ、月2回の音楽療法に活用されている。キッチン是对面式で、音やにおいを感じられるように、各居室の中央に配置されている。共有空間にはエアコンと加湿器、サーキュレーターを置き、温度・湿度の管理をしている。感染症対策のため、日中は双方向の窓を少しずつ開けて換気をしている。屋外に専用の物干し場を設置して、洗濯物が目に触れないよう配慮している。季節感が五感にとって大事と考え、リビングには毎月異なる、季節に合った装飾やレクリエーションで作った折り紙作品・行事写真飾っている。職員は、共用部分の各所に庭で咲いたバラや梅の生花を飾って、利用者が季節を感じられるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ顔が向きあわないように置いてあります。玄関や廊下にもベンチが置いてあり、おしゃべりをしながら日なたぼっこをしたり、1人静かに本を読まれる方もいます。		

54	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある箆笥、鏡台、椅子や好みのカーテンなどご家族が工夫されてお持ちになります。認知症の進行により危険と判断した時はご家族にお話しをして持ち帰りをしていただいています。</p>	<p>すべての居室がベランダ（ウッドデッキ）に面し、自由に外に出られるようになっている。開放感のある掃き出し窓の外には、草木豊かな自然の風景が広がっている。居室には、照明・エアコン・ベッド・クローゼット・レースのカーテンが備え付けられている。冬は、すべての居室に濡れたバスタオルを干して乾燥対策をしている。利用者は馴染みのタンスや机・椅子などの家具、カーテン・テレビ・仏壇・鏡台などを持ち込んでいる。居室の掃除は、利用者が職員と一緒にモップを掛けている。また夜勤者がモップでの消毒を行っている。入居間もない方や転倒の可能性のある方等には家族に説明した上で、離床センサーを使用している。各階の廊下に人感照明を設置し、夜間の利用者の動きに直ちに対応できるように対策している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下とリビング、ダイニングは対面式キッチンから見守りができるようになっています。洗濯物を干す畳む、食器拭き等のお手伝いは職員が見守り声を掛けながらして頂いています。</p>		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 都筑の丘

作成日 令和6年 6月20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	職員の質の向上のための、研修計画の実践状況が良く見えません。外部研修についても積極的な取り組みが必要だと思われます。職員の全体的なレベルアップを図ることを期待します。	明確な研修計画を立て、職員の全体的なレベルアップを目指します。研修後のレポートも次のステップに繋がります。	外部研修やオンライン研修に参加した職員が研修で得た知識、技術を現場の職員にフィードバックする事が職員の意識と介護レベルの向上になります。今後は内部研修の回数を増やし、外部講師による全体研修も行います。	3か月。 6月7日に外部講師による、高齢者虐待の全体研修を行いました。
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。